

## トップマネジメント・コース

～戦略思考に基づいたビジョンを語り、  
先頭に立って実践できるトップリーダーの養成～



開催期間

2018年 7月上旬～12月中旬

日 程

原則 毎週水曜日 18:00～20:30

対 象

取締役、執行役員、事業部長、部長 定員25名

会 場

経営アカデミー  
(東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル6階)



公益財団法人 日本生産性本部

<https://k-academy.jp/>

# ねらい

いつの世にも企業家にとって大事なことは、

- (1) 様々な議論や現象の背後にある本質を考えることであり、
- (2) その本質を概念化、理論化することによって論理的納得性を持たせ、
- (3) それらを現実に適用する方法論を開発することである。

経営アカデミー名誉学長 野中郁次郎  
学長 榊原 清則

トップマネジメント・コースでは、

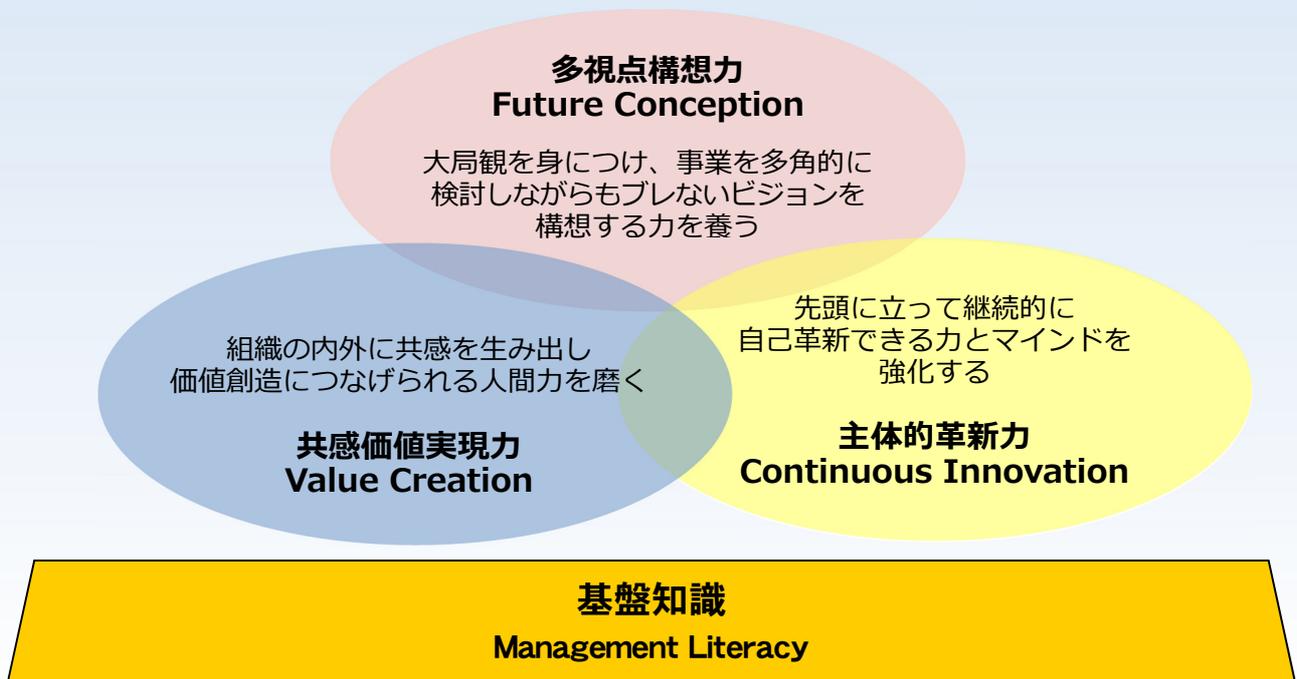
**戦略思考に基づいたビジョンを語り、**

**先頭に立って実践できるトップリーダーの養成** を目指しています。

経営アカデミーが目指す人材像とは、

「多視点構想力」「共感価値実現力」「主体的革新力」

この3つの力を兼ね備え、次代の経営を創っていくことのできるリーダーです。



経営アカデミーとは

戦後日本の経済復興を推進し、国民生活の向上を図る目的で設立された日本生産性本部の10周年記念事業として、1965年に創設されたわが国初の本格的なビジネススクール（経営大学院）です。以来50年余にわたり、企業の実践力と学界の最先端理論がぶつかり合う創発の場として、産業界からの支持をいただき、14,000名を超える修了者（経営アカデミーマスター）を輩出しております。多くの方が企業トップ、産業界のリーダーとして活躍されています。修了されたOB・OGの層の厚さは他の経営人材プログラムを圧倒し、わが国の産業界の発展に大きな役割を果たし続けております。

# 指導講師陣

## コース委員長



松本正義  
住友電気工業  
会長

## コーディネーター・指導講師



加護野 忠男  
甲南大学  
特別客員教授



内野 崇  
学習院大学  
教授



浅羽 茂  
早稲田大学  
ビジネススクール 教授



米山 茂美  
学習院大学  
教授



安藤 史江  
南山大学大学院  
教授

## 講師陣

浅羽 茂	早稲田大学ビジネススクール 教授
新 将命	国際ビジネスブレイン代表(元J&J社長)
安藤 史江	南山大学大学院 教授
内野 崇	学習院大学 教授
加護野忠男	甲南大学 特別客員教授

木川 眞	ヤマトホールディングス 会長
木村 昌平	元セコム 会長
公文 俊平	多摩大学 教授
坂根 正弘	コマツ相談役
酒巻 久	キャノン電子 社長
坂本 幸雄	元エルピーダメモリ 社長

出口 治明	ライフネット生命 会長兼CEO
西山 茂	早稲田大学大学院 教授
松井 忠三	良品計画 名誉顧問
松本 正義	住友電気工業 会長
山田 英夫	早稲田大学ビジネススクール 教授
米山 茂美	学習院大学 教授

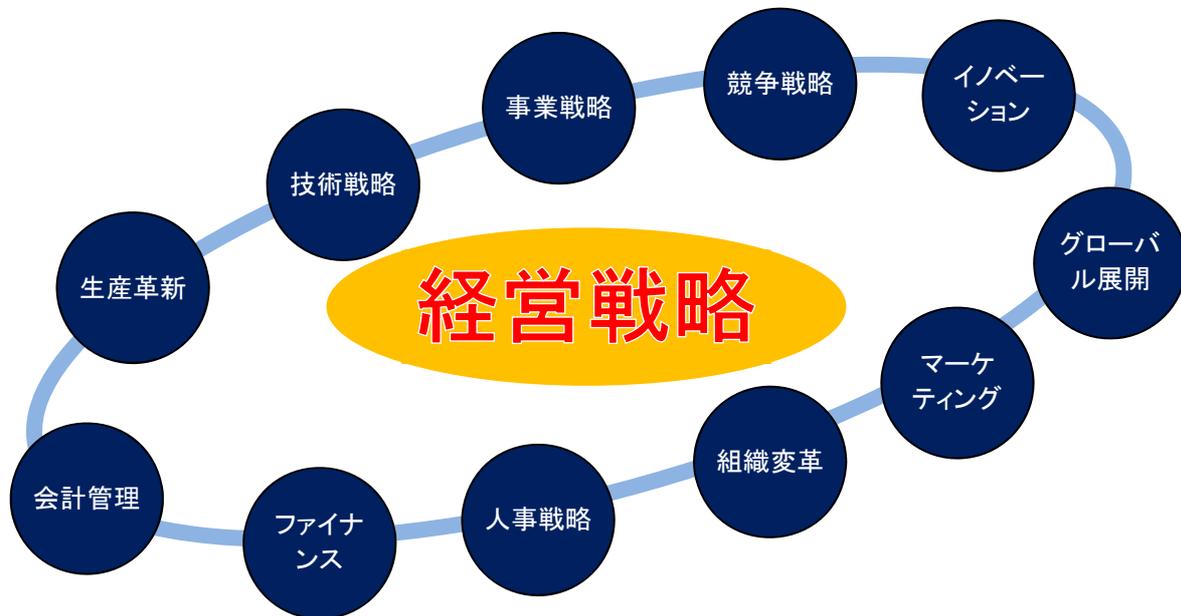
(過去2年実績)

## コースの特色

- 様々な角度からものごとを捉える視点を持つことによって、ビジョン構想力、課題解決能力、問題発見能力の向上を重視しています。
- 色々な分野の第一人者にご登壇いただき、優れた論理展開力に学びます。戦略課題に取り組むにあたり、戦略的思考とは何かについて、実践的な思考訓練を交えながら議論し理解を深めます。
- トップ経験者との対話のなかからリーダーシップの本質に触れ、経営者に求められる意思決定力や覚悟、行動のあり方を考えていきます。
- グループ研究では、3回の合宿をはじめ異業種幹部との徹底した議論の機会を設定しています。参加者相互の多様な視点を理解し、自分のものの見方や行動の特性を振り返るとともに、豊かな人脈を得ることができます。
- 自社・自組織のビジョン達成に向けた戦略課題、本質的な問題の所在と対策について、指導講師陣および受講者相互で徹底した議論を行います。
- 成果は、与えられるものではなく、一人ひとりが創り上げていくものです。積極的な問題提起や発言が内容をより充実したものに高めていきます。

# 「トップリーダー」に求められるもの

トップリーダーは、ブレない判断軸と様々な視点を持たなければなりません。経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）をどのようにマネジメントしていくか、目標達成に向け、その手腕が問われます！



## ■参加者の声

■大きな視野で全体を見渡す癖が付いたように感じる。成功には、綿密な準備とリーダーの強い思いが必ず存在する。常に目標を絶対に達成させるという拘りを持ち、現状で良いのか、違う考え方がないのかを考えるようになった。(薬品、執行役員)

■戦略の立て方や、物事の見方が変化したことは言うまでもないが、最も気づかされたことは、リーダーとしての考え方、立ち振る舞い含めその存在意義だと考える。成功している企業の変革、構造転換の際には必ず強力なリーダーシップを発揮するリーダーがおり、周りを巻き込んで全社で向き合っていく大切さを知ることが出来たことは非常に有益であったと思う。(製造、部長)



■講師の現代経済／経営に沿った講義は、今後の経営戦略にテクニカル的に活かす事のできるヒントを頂いたと思う。経営者の講話は、成功／失敗体験に基づいた説得力のある話が多く、改めて仕事への情熱と人間力の大切さを理解した。(サービス、取締役)

■会社での考え方・会議での発言・経営会議に出席する時の心構え・事業戦略の推進方法等、自分自身が成長していることを感じる。研修が最後ではなく、まだ扉を開けた段階であると自覚し、更に成長していけるよう努力したい。(製造、執行役員・事業部長)

■経営トップの経験談、人生観、考え方などを聴くことが出来、毎週水曜日が待ち遠しくなるほどであった。講義やグループ研究を通じ、ものの見方、考え方が変わったと思う。異業種のメンバーとの交流は、自分を見つめ直す良い機会となった。(運輸、部長)

■本コースを受講する同職位以上の方と約半年間、毎週行動を共にすることで、企業内ではあまり本音で話せない悩みや業務上の課題を、メンバー各々が抱えて日々を過ごしていることに気

が付き、同僚的な感じを得た。自分が少し小さな人生観・価値観等で日常を過ごしていたのではないかと感じるぐらい、自分を見つめ直す良い機会に巡り合ったと感じている。この人脈を大切にしていきたい。(運輸、部長)



■事業戦略や競争戦略を組み立てる上で求められる基礎知識を学ぶことができた。経営者講話では、体験に基づく示唆に富んだエピソードを聞くことができ、変革を成し遂げる実践的な手法とともにリーダーとしての心構えについて多くの事を学べた。海外調査では、発展途上国でのビジネス展開において、それぞれの国・地域の歴史と社会情勢を十分に理解し市場戦略を明確にすることが重要であることなど貴重な知見を得た。いずれも今後の自社での取り組みに活かしていきたい。(製造、部長)

# プログラム概要

## 講義：知の獲得と議論の場

### 1. 大局的な見地から本質を捉える

- 日本の経営の善さ、強さ
- 経営者の視点（戦略発想の本質）
- これからの企業経営、経営戦略、事業戦略、競争戦略
- グローバルビジョン

### 2. 本質をあぶりだすフレームワークを身につける

- 経営戦略の論理
- ビジネスモデルの構造を見抜く
- イノベーションと市場創造

### 3. 組織を動かす立場の意思決定と行動のあり方を考える

- トップ判断の重要性
- 経営理念と経営意思決定
- 経営視点の企業分析
- リーダーシップのエッセンス

### 4. 経営トップの実践に学ぶ組織を動かす要諦

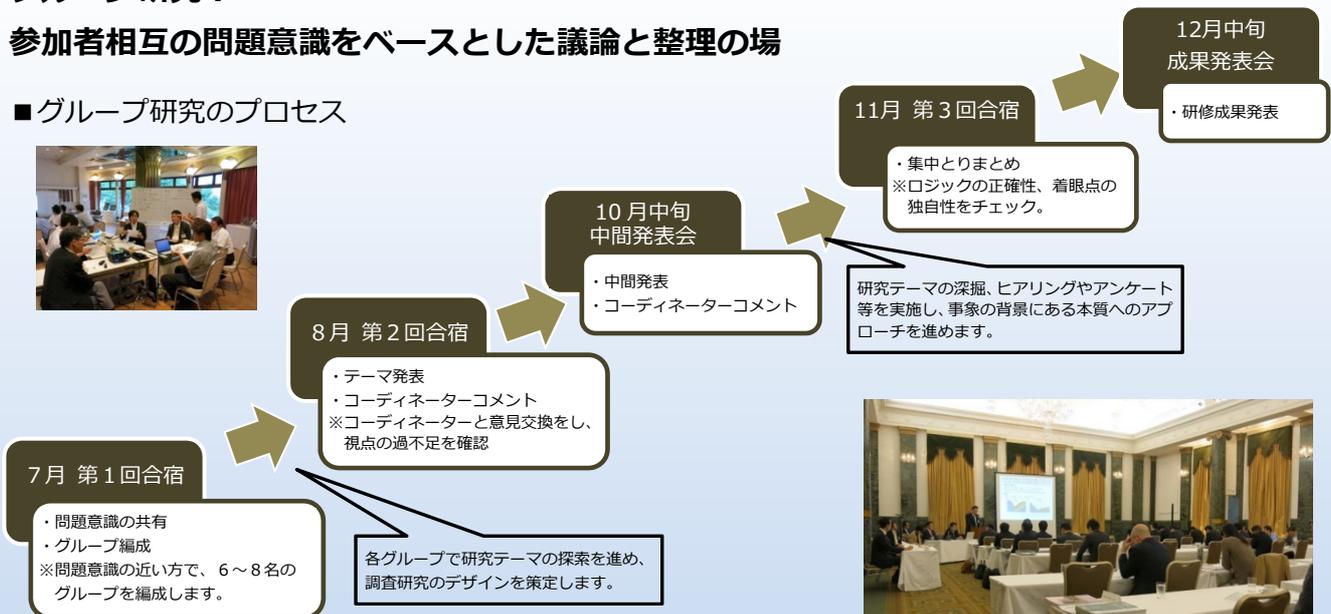
- 激変する環境下での企業経営
- 事業撤退と再生
- 経営者に求められる覚悟と決断



## グループ研究：

### 参加者相互の問題意識をベースとした議論と整理の場

#### ■グループ研究のプロセス



## グループ研究（2016年度）

### ■ Aグループ

“アスクルミン”が贈る  
「企業理念って本当に必要？」

なぜ企業理念は必要なのか。この疑問を明らかにし、企業理念の本質を見極めることを目的に研究。あるべき企業理念の要件を6項目に整理するとともに、実企業の企業理念の策定を実践提案。

### ■ Bグループ

中年サラリーマンが挑戦する  
リアル起業物語

今後創業を目指す際の手引きとなるような起業時の課題の研究を行い、自身の起業を念頭にITを駆使した時間軸と空間軸のマッチングで事業創造と試み、実業への展開として創業コンテストに参加。

### ■ Cグループ

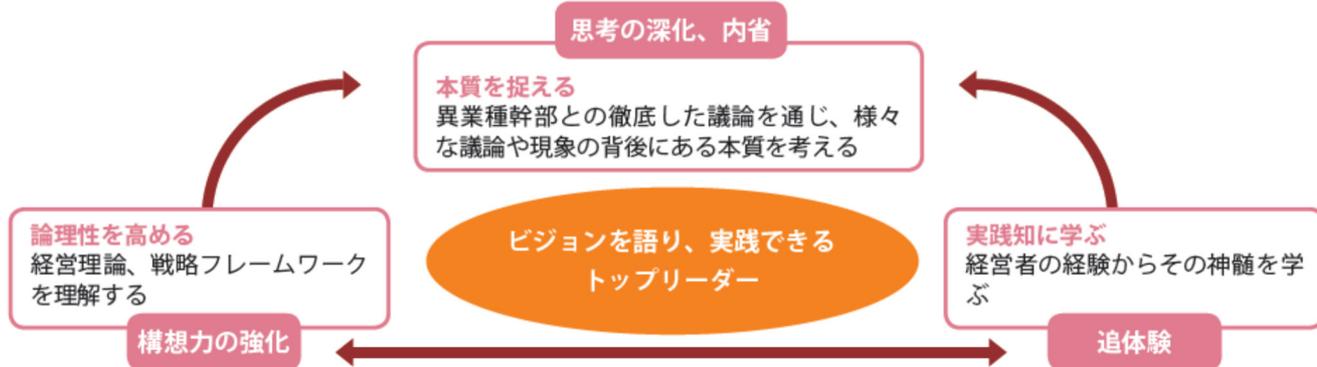
働き方改革の処方箋

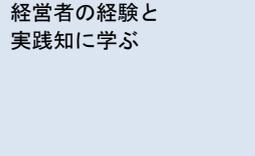
「コッターの8段階のプロセス」をフレームワークとし、実際に企業が行ってきた「働き方改革」の取組み事例を分析。自らが実行に移し、かつ、成功に導く実践的な「働き方改革の処方箋」を策定。

# 日 程

## 特長

日本を代表する経営者による経営の神髄の伝授、講義やケーススタディを通じた戦略フレームワークの理解、異業種幹部との徹底した議論により、トップリーダーに求められるマネジメント力を磨く



月	テーマ	内 容	グループ研究	自己課題
7月	大局的な視点から本質を捉える 	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界観、歴史観、文明観を身につける</li> <li>戦略の失敗に学び、トップ判断の重要性を考える</li> </ul>	グループ編成 グループ研究【1-2】	自己の振り返りと研修目標の設定
		<b>第1回合宿</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスモデルとロジックを検討する</li> <li>戦略構築のフレームワークを習得する</li> </ul>		
8月	経営者の経験と実践知に学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営の本質とは何か ～企業変革におけるトップの役割</li> <li>リーダーシップのエッセンスとは何か ～勝ち残る企業づくり</li> </ul>	グループ研究【3-4】 テーマ探索	各講義の気づきと学びを整理
		<b>第2回合宿</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営視点の企業分析</li> <li>イノベーションと価値創造の進め方</li> </ul>	グループ研究【5-7】 テーマ発表	
9月	組織をどういう方向に変えるのか 世界から日本を見る 	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織変革をどう実践するか ～ありたい姿、あるべき姿から構想する</li> </ul>	グループ研究【8-9】	
		<b>海外(アジア)視察調査</b>  ベトナム  カンボジア <ul style="list-style-type: none"> <li>世界・アジアの視点から自社の事業をどう位置付けるか</li> <li>アジアの成長マーケットをどう取り込むか</li> <li>生産拠点・サプライチェーンをどう構築するか</li> </ul>		
10月	これからの経営を考える 	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客価値とビジネスモデルを考える ～違いをどう創り出していくのか</li> <li>ビジネスイノベーション ～儲ける仕組みを考える</li> </ul>	グループ研究【10-12】 中間発表 グループ研究【13-14】	中間振り返り
		<b>第3回合宿</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>危機に問われるリーダーの覚悟</li> <li>トップリーダーに求められること</li> </ul>	グループ研究【15-16】 集中討議	
11月	リーダーの決断と実践を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業理念を経営に活かすには ～理念による組織運営とモチベーション</li> </ul>	グループ研究【17】	
		【グループ研究成果発表】	報告書とりまとめ【18-19】	研修成果の振り返りと実践目標の設定
2019年6月	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修後の取り組みに関する情報交換</li> </ul>		
		講義：16コマ+選択講義+フォローアップ	グループ研究：19コマ	

※講義とグループ研究の各コマ数は2017年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。

# 広がりのあるプログラム

## ■ 選択講義

コース期間中、経営アカデミー全コースから厳選された講義を参加者へご案内いたします。現在直面している経営課題、担当業務における問題意識に沿って、各コースで開催される講義を横断的に自由に選択し、組み合わせることで、ご自身のオリジナルプログラムを作成して受講することができます。

## ■ スキルアッププログラム

コース期間中、「ファシリテーション」「プレゼンテーション」などのスキルアップのためのプログラムを用意。コースの参加者が、必要に応じて自由に受講でき、基礎的ビジネススキルの向上にお役立ていただけます。

## ■ ミニMBAプログラム

コース開講前に、「会計・財務」「戦略」などの経営に関する知識を学べるミニ講座を開催。コースの参加者が、これから経営アカデミーのプログラムに参加するにあたり、基盤となる知識の習得や自らの知識の整理・確認ができます。

## ■ 修了後のフォローアッププログラム

経営アカデミーのプログラムによって得られた成果を自社での業務に活かしていくために、終講時に自らの課題を設定。修了の半年後を目安に、自らの課題への取り組みについて進捗を報告します。学びの成果の自社での展開について、さらに効果的な取り組みへの気づきの場となります。

また、グループ単位で継続的に開催されるOB・OG会だけでなく、コース全体や年度を越えた同じグループ研究担当講師を囲む会など、メンバーによる情報交換・事例共有の場として事務局がその開催・運営をサポートしてまいります。



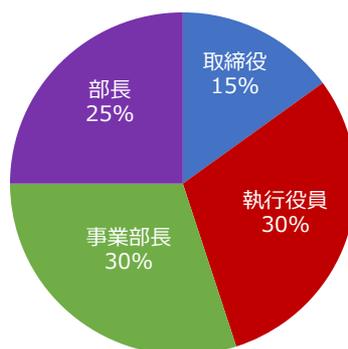
2015年度OB会にて  
「スーパーカミオカンデ」を視察（2017年10月）

## 近年の主な参加企業

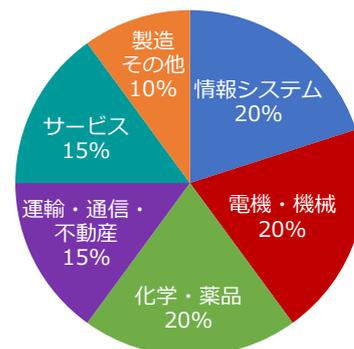
穴吹興産、穴吹エンタープライズ、穴吹トラベル、穴吹ハウジング、アルケア、NECソリューションイノベータ、NEC通信システム、オリンパス、風間建設工業所、カスタマシステム、カンダホールディングス、キャノンプレジジョン、杏林製薬、共和電業、麒麟ビバレッジ、KDDI、コマツ、JFEライフ、JCB、シスメックス、新日鉄住金ソリューションズ、水ing、大京、高島屋、タキロンシーアイ、竹虎、竹本容器、ディックソリューションエンジニアリング、テックスエンジニアリング、テルモ、東京地下鉄、東京鋼鉄、西島製作所、鳥居薬品、日清オイリオ、日本信号、日本政策金融公庫、日本製紙、日本ゼオン、日本電業工作、日本郵政、農林中央金庫、乃村工藝社、東日本旅客鉄道、日立物流、富士ソフト、富士通、富士通エフサス、マースエンジニアリング、マサル工業、丸山製作所、三井金属鉱業、三越ビル環境管理、三和サインワークス、八洲電機、ヤマト、ユー・エス・エス、リックス（五十音順）

## ■ 2017年度 トップコース参加者データ

〔平均年齢50.9歳〕



<役職別>



<業種別>

# 経営アカデミー コース一覧

経営アカデミーとは、1965年に産業界の発意と学界の協力により創設されたわが国で最初の本格的な経営大学院です。当アカデミーを修了された方々は14,000名を超え、産業界のリーダーとして活躍しています。

## ●マネジメント・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費( )内8%税込	
				賛助会員	一般
トップマネジメント・コース	2018年7月～12月	取締役、執行役員、事業部長、部長	戦略思考に基づいたビジョンを語り、先頭に立って実践できるトップリーダーの養成	115万円 (124.2万円)	125万円 (135万円)
事業構造変革コース	2018年6月～2019年1月	事業責任者、企画・監査部門の責任者、戦略スタッフ	事業構造変革に必要な取り組みを統合的にコーディネートし、経営トップをサポートできるリーダーの養成	122万円 (131.76万円)	132万円 (142.56万円)
経営戦略コース	2018年5月～2019年3月	部長、課長(全職種)	自社ビジネスのあり方を見直し、次の戦略を深く多面的に考えるリーダーの養成	106万円 (114.48万円)	116万円 (125.28万円)
技術経営コース	2018年5月～2019年2月	技術戦略、技術企画、研究所、製品開発担当(部長・課長・リーダー)	“技術”から事業価値を創出できるリーダーの養成	106万円 (114.48万円)	116万円 (125.28万円)
次世代グローバルリーダー総合コース	2018年6月～2019年1月	全職種のリーダー、スタッフ	広い視野を持って戦略を構想し、行動できる人材の養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
組織変革とリーダーシップコース	2018年6月～2019年2月	部・課・チームの組織運営を行うリーダー	人・組織・戦略の視点で組織変革を推進できるリーダーの養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)

## ●プロフェッショナル・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費( )内8%税込	
				賛助会員	一般
マーケティング戦略コース	2018年5月～2019年3月	マーケティング、営業部門の部長、課長、リーダー、戦略スタッフ	先見性・革新性・戦略性で成熟市場を打ち破るマーケターの育成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
生産革新マネジメントコース	2018年6月～2019年2月	生産関連部門(製造、生産管理、品質、調達など)のリーダー、マネジャー	経営と現場の視点で、ものづくりを構想できる人材の養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
人事革新コース	2018年5月～2019年2月	人事部・人材開発部門のマネジャー、リーダー、戦略スタッフ	人材マネジメントに革新を起し、世界で競争力のある強い組織づくりをリードする戦略的人事リーダーの養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
経営財務コース	2018年6月～2019年2月	財務、経理、IR、企画部門のマネジャー・専門スタッフ	企業価値の向上をリードする、将来のCFOの養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)

■国内合宿費 1回当たり 4～7万円

■海外調査費 トップマネジメント・コース 39万円程度、人事革新コース、生産革新マネジメントコース 30万円程度

※参加費、その他費用は2018年度の予定金額

## お申込み・お問い合わせ先



公益財団法人日本生産性本部 経営アカデミー  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-2  
新丸の内センタービル6階

TEL : 03-5221-8455 FAX : 03-5221-8479

mail: academy\_info@jpc-net.jp

HP : <https://k-academy.jp/>

\* 賛助会員制度につきましては、下記までお気軽にお問い合わせください。

会員サービスセンター TEL : 03-3409-1116

(2018年1月よりTEL:03-3511-4026)



東京駅丸の内北口より徒歩3分、地下鉄大手町駅B2b出口よりすぐ